

①確実な止水性、強度の確保  
②削孔の精度  
③近接する埋設物、構造物に影響  
工法選定では、  
工事内容  
薬液注入工事  
二重管ダブルパッカーワーク法  
(地上施工)  
Q=一七八・六五八KL  
N=九〇本  
(どう道内施工)  
N=三八本

本現場は京都市の国道九号線西大路五条交差点横の京都西共同溝発進立坑とNTTの朱雀ビルのとう道(到達側)をゆ八〇〇mmのパイプリーラー工法により接続する工事に於いて、推進管の土被りが約二三mあり、坑口部の堆積層は、透水性が高い砂礫土であるため、推進時のゆるみ、湧水現象、土砂の流出崩壊を招く恐れがあります。それらの現象を未然に防ぐために薬液注入工事を実施しました。

①確実な止水性、強度の確保  
②削孔の精度  
③近接する埋設物、構造物に影響  
工法選定では、  
工事内容  
薬液注入工事  
二重管ダブルパッカーワーク法  
(地上施工)  
Q=一七八・六五八KL  
N=九〇本  
(どう道内施工)  
N=三八本

本現場は京都市の国道九号線西大路五条交差点横の京都西共同溝発進立坑とNTTの朱雀ビルのとう道(到達側)をゆ八〇〇mmのパイプリーラー工法により接続する工事に於いて、推進管の土被りが約二三mあり、坑口部の堆積層は、透水性が高い砂礫土であるため、推進時のゆるみ、湧水現象、土砂の流出崩壊を招く恐れがあります。それらの現象を未然に防ぐために薬液注入工事を実施しました。

①確実な止水性、強度の確保  
②削孔の精度  
③近接する埋設物、構造物に影響  
工法選定では、  
工事内容  
薬液注入工事  
二重管ダブルパッカーワーク法  
(地上施工)  
Q=一七八・六五八KL  
N=九〇本  
(どう道内施工)  
N=三八本

本現場は京都市の国道九号線西大路五条交差点横の京都西共同溝発進立坑とNTTの朱雀ビルのとう道(到達側)をゆ八〇〇mmのパイプリーラー工法により接続する工事に於いて、推進管の土被りが約二三mあり、坑口部の堆積層は、透水性が高い砂礫土であるため、推進時のゆるみ、湧水現象、土砂の流出崩壊を招く恐れがあります。それらの現象を未然に防ぐために薬液注入工事を実施しました。

①確実な止水性、強度の確保  
②削孔の精度  
③近接する埋設物、構造物に影響  
工法選定では、  
工事内容  
薬液注入工事  
二重管ダブルパッカーワーク法  
(地上施工)  
Q=一七八・六五八KL  
N=九〇本  
(どう道内施工)  
N=三八本

本現場は京都市の国道九号線西大路五条交差点横の京都西共同溝発進立坑とNTTの朱雀ビルのとう道(到達側)をゆ八〇〇mmのパイプリーラー工法により接続する工事に於いて、推進管の土被りが約二三mあり、坑口部の堆積層は、透水性が高い砂礫土であるため、推進時のゆるみ、湧水現象、土砂の流出崩壊を招く恐れがあります。それらの現象を未然に防ぐために薬液注入工事を実施しました。

元請名  
日本コムシス株式会社  
工事場所  
京都府京都市右京区西院南  
工事内容  
薬液注入工事  
二重管ダブルパッカーワーク法  
(地上施工)  
Q=一七八・六五八KL  
N=九〇本  
(どう道内施工)  
Q=一一・三七二KL  
N=三八本

これらの条件に当てはまるダブルパッカーワーク法が採用されました。また、接続するとう道直下は、改良範囲まで注入材が届かないことからとう道内から二重管ストレーナー工法複相方式での施工となりました。

施工は片側四車線のうち、両端の一車線に3m×5mの覆工板を設置し、その覆工下で注入を行いました。昼間は交通量が非常に多く、道路を規制して作業をしなければならないため、ダブルパッカーワーク法は全て夜間に亘ります。現場の特徴として夜間は交通量が減り、閑静な場所で音対策を実施する必要がありました。さらに、現場の土質は砂礫と粘土の互層でN値が50以上の中箇所も多く、パーカッショングでの打撃が必要になると考へました。さもなく、回転削孔をメインで施工ができ、最後まで苦情なく施工を終えることができました。

まず、現場の特徴として夜間は交通量が減り、閑静な場所で音対策を実施する必要がありました。さらに、現場の土質は砂礫と粘土の互層でN値が50以上の中箇所も多く、パーカッショングでの打撃が必要になると考へました。さもなく、回転削孔をメインで施工ができ、最後まで苦情なく施工を終えることができました。また、砂礫土は比較的硬くなく、回転削孔をメインで施工ができ、最後まで苦情なく施工を終えることができました。

まず、現場の特徴として夜間は交通量が減り、閑静な場所で音対策を実施する必要がありました。さらに、現場の土質は砂礫と粘土の互層でN値が50以上の中箇所も多く、パーカッショングでの打撃が必要になると考へました。さもなく、回転削孔をメインで施工でき、最後まで苦情なく施工を終えることができました。また、砂礫土は比較的硬くなく、回転削孔をメインで施工ができ、最後まで苦情なく施工を終えることができました。

まず、現場の特徴として夜間は交通量が減り、閑静な場所で音対策を実施する必要がありました。さらに、現場の土質は砂礫と粘土の互層でN値が50以上の中箇所も多く、パーカッショングでの打撃が必要になると考へました。さもなく、回転削孔をメインで施工でき、最後まで苦情なく施工を終えることができました。

まず、常に安全意識を持ち、

## 最前線レポート

発行所  
太平洋基礎工業株  
たいよう新聞委員会

# たいよう

全国の支店、営業所、出張所の職員並びに協力業者の皆様、お疲れさまです。

SNSを見て何かを感じようと/orするのも素敵な事ではないでしょうか?

さて二〇二四年四月から適用される残業時間の罰則付き上限規則が大きな課題となつております。日本経済新聞社のアンケートでは、土木の現場の四割、建築の現場の約半数の会社が残業上限規制の基準を達成できるめどが立つてないとの結果が出ています。ではなぜ、建設業の働き方改革は進まなかつたのでしょうか。建設業は時間外労働の上限規制に関して五年間の猶予期間が設けられておりました。他業界で進む働き方改革が建設業で進まなかつた理由は建設業における長時間労働の常態化と深刻な人手不足があります。

こうした背景があり、働き方改革が猶予されていました。しかし、働き方改革を進めない多神教で、今年もメリクリスマスと名付ける世界的ブランドメーカーとも多くなっています。

しかししながら日本の宗教感はSNSの時代で外国の情報は直ちに入ります。一流ブランドの多神教で、今年もメリクリスマスと名付ける世界的ブランドメーカーとも多くなっています。

そのため、どうしてこうなったのか解らないままの退職となりました。仲間が離職するにあたりあらためて必要と感じるのは、何

かに苦しみ、話を聞いてほしいと思つて。どんな事に悩み、

かに耳を傾け、一人一人の状況に合わせて励ましと、正しい情

報を伝える事が大事なのか?身

近な信頼出来る人の言葉が心を動かし、行動変容の契機になる

事は心理学の研究でも明らかに

なっています。若い世代で孤独

## 低圧電気取扱い業務

支取扱い業務

令和五年一〇月二二日（日）、  
豊洲市場から目と鼻の先に位置  
するバーベキュー場「THE  
BBQ BEACH in T  
OYOSU」にて、東京支店・  
関東協力会の職員・家族の参加  
者一二六名で、秋の懇親会が開  
催されました。ご準備いただき  
た東京支店・関東協力会の皆様  
には感謝申し上げます。

が沿岸であることも踏まえると  
上衣が必要になるだろうと考え  
ていました。しかし、会場につ  
いてみると、天気は快晴、日差  
しも健在、沿岸というロケーシ  
ョンも相まって風が心地良い秋  
晴れでした。

集まつてくる来場者が次々に駐車場を埋め尽くしていました。開場と同時に、席の確認や準備が始まり、前田支店長を始めた方々の指示のもと、準備を終えBBQの開始を迎えるた。開始に当たつては、それぞれの席で挨拶があつたようで、私の座つた席では、関東協力会会長の清会長、前田支店長からの声で乾杯の挨拶がとられました。家族連れで来場されている方も多く、特にお子さんの元気あふれる活発な姿からは、見ていてこちらが元気をもらえるよう

現代においては距離を離して考えられ始めている会社と家庭がこの場においては調和していくようを感じられました。

会場では和気藹々とした空気感をしており、普段の仕事時とはまた違った、軽快な笑顔で溢れていました。関東協力会、東京支店の皆様とも関わりの少ない私にも、フランクに接してもらえる方が多く、入社したての時に感じていた暖かなコミュニケーションの一員になつたのだ実感しました。

軽快で暖かなコミュニケーション

ミンの輪は、多くの人が受け継がれるはずです。そして、こうしたものには、確かな価値も宿るとして考えます。この輪を、世代を経ても受け継いで、永く保つていただくことで、次へ、さらに次へと繋ぐこともできるでしょう。

私も、未熟ではありますがないこの輪を繋ぎ、継いでいくことのできるよう、日々精進したいのです。

再度になりますが、今回の  
ような良い行事を企画・進行してくださった関東協力会、東京支店の皆様に感謝申し上げます

などの質問があり、工法ごとの施工方法の違いや造成深度、造成幅の説明をさせていただきました。各工法で使用する重機機器を製作されている企業様も同業他社様もブースに来られ、工法の改良点など参考になる意見を交換できたことが良かったと思います。次回の建設技術展よりも良い工法・知識を持つ参加したいと思います。

最後にブースの設営、出展に協力して下さった方々、ブースにお立ち寄りくださいた皆様に深くお礼申し上げます。

電安全衛生規則第三六条四号より定められた電圧量ごとの区分の一つであり、その他に「高圧」、「特別高圧」があります。また、区分の基準となる電圧量は電流の種類によって異なっています。電流には、電気の流れる方向や大きさが変わらない「直流」、電気の流れ方向や大きさが一定周期で変化する「交流」の二種類があり、「低圧」に分類される電圧量は「直流で七五〇V以下、交流で六〇〇V以下」となっています。よって、電力会社から工事用変電設備に送られる電力は交流で二〇〇Vの電圧、発電機は直流

月から九月がひと月あたり  
件程度であり、他の月の約  
の件数となっているみたいで  
いずれも気温や湿度の高い季  
であることから汗の湿りや汗  
露出によって感電しやすい状  
態が災害の誘発になつている  
事です。

電気自身の危険性だけでは  
電気を取扱う我々の慣れや意  
識を深めることの重要性を今  
の特別教育で改めて理解す  
とができました。

グループディスカッショ  
ンは、感電灾害による事故故  
動画から、事故の原因とそ

実技教育では、二人一組で電気配線用遮断器取替作業として開閉器を操作し、停電作業、復電作業を行いました。その中で通電状況を確認する「検電器」や「電気作業用ゴム手袋」等といった初めて使用する道具がありました。また作業自体も初めて行う為、かなり緊張した実技教育でした。実技教育で確認する箇所が多いことから、電気を取り扱う作業はそれだけ注意しなければならない危険な作業と実感しました。

全のために生かさなければならぬものであり、工事現場で作業をする以上、電気に関わることは絶対にあるため、今後も現場を管理していく上で、感電災害を起こさないよう、今回の経験を今後に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の特別教育を開催して頂きました太洋名古屋安全衛生協力会様、研究開発センターには心より感謝いたします。

れている方も多く見られて大いに盛り上がりを見せていました。弊社のブースではミニウォール工法をメインとして展示し、TRD工法、SATコラム工法構造物修復工事も併せてパネルを掲げ、来場者様に対しても社員が必ず応対するというスタイルで行いました。ミニウォール工法には施工用途や経済性、他工法との違いなど様々な質問をいただきと同時に関心をもっていただき、また、一般の方に住宅にも関わる構造物修復工事に興味をもつていただいた方が多くみられました。

今回の建設フェア開催の目的は市民に対するくらしと建設は

して企業紹介を行いました。建設業界への関心も上がつてきています。一般参加者の中には今まで別の業種で働いてきて、建設業にも挑戦してみたいとなる方や、建設業とは関係ない学校に通われていて、この機会に建設業も見ておきたいという学生の方もいらつしやいました。建設業は慢性的な人手不足に陥っています。このよう機会に業種を問わず多くの方に参入していただき建設業界全般が盛り上がりがつていけたら良いと思います。

ブースに来ていただいた方は「ミニウォール工法」のカットアップ写真などを見て、バーチャルラボで

洋基礎工業(株)神守研究開発センターにて「低圧電気取扱い業務特別教育」が太洋名古屋安全衛生協力会と名古屋支店の合同主催で開催されました。

今回の特別教育は、「低圧の充電電路の敷設、修理業務又は低圧電路のうち充電部分が露出している開閉器の操作業務」を行なう際に修了していることが必要です。

特別教育になりまして、今回は、学、グループディスカッショナリ、実技教育を一日かけて行つた。座学では電気や電気設備、全保護具についての基礎知識を一般を学び、特に感電災害の危険性についての内容が印象的でした。

「分電盤等、電動機械以外の漏電対策は充分だったのか」、「足場状況等、電気抵抗を低下させる要因が無かつたのか」等々、様々な側面から意見が出されました。その中には自分が気付かなかつたものもあり、今後今回の事例と類似点のある現場で管理していく上で注意すべきポイントを改めることができ

でなく、その本質を学べる大切な時間だと思いました。特に電気の危険性を知った今だからこそ今回の特別教育を復習し、安



「高松」が一月一日(金)、八日(土)の二日間、高松市林町香川で開催されますサンメッセ香川で開催され、出展をさせて頂きまきました。両日共にあいにくの天候となりましたが、そんな天候にも関わらず、多くの来場者が訪れておりました。また、開催日である一月一八日は土木の日といふこともあり、会場内では土木に関するさまざまなイベントや、地元の学生達による家族で楽しめる体験型イベントも同時開催

すれば普段目にする事が無くなる事はない。生活に関わりがないように思われる事が多い。今回、そんな方々やこれから活躍していく学生の方達にも弊社の活動内容をお話しさせていただく良い機会となり、縁の下の力を持ったとして皆様の暮らしの中に携つてお話を少しだけでもP.R.できただけではないでしょうか。

最後になりましたが、この度はお足元が悪い中、弊社ブースにお越し頂きました皆様には御

(木)の二日間にかけてインテックス大阪六号館にて開催されました。今回は「ミニウオール法」以外にも「TRD工法」「SATコラム工法」、構造物復工法研究会からは「沈下修理工事」などを出展させて頂きました。地盤改良工事以外にも修復工事などを手掛けていることで他の企業ブースや一般参加者も多数足を運んでいただき交話を深められました。また建設

建設フエア四国

2023 in 高

術が深くかかわっていること理解してもらう為の展示会とつていました。弊社の仕事は図には残らない仕事が多く、

建設技術展

近幾年流行語